

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度 第2回社会教育委員会議
開 催 日 時	令和7年10月22日(水) 午後 7時00分から 午後 8時45分まで
開 催 場 所	吉川市役所 3階304・305会議室
出席委員(者)氏名	大河内伸浩委員、川上裕子委員、福田稔之委員、 石井亮英委員、入江千佳委員、強矢奈保子委員、 米田清美委員、能登克己委員、鈴木博委員、 高田明充委員、富田泰行委員、松村勘由委員
欠席委員(者)氏名	田中裕史委員、石垣隆委員、土屋真智子委員
担当課職員職氏名	生涯学習課 課長：油川誠 主幹：山崎功二 主査：川島和也 主事：尾花香穂 中央公民館 館長：鈴木洋
会議次第と会議の公開又は非公開の別	《会議次第》 1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 令和7・8年度研究テーマについて (2) 令和8年度社会教育関係団体への補助金交付について 4 その他 5 閉会 《公開又は非公開の別》 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	次第 令和7年度第2回社会教育委員会議資料
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録

会議録確認指定者	川上裕子委員、福田稔之委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
高田委員長 事務局 高田委員長 松村委員	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ 高田委員長あいさつ</p> <p>3 議事 (1) 令和7・8年度研究テーマについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明を求める。 ・資料に基づき説明。 ・質問、意見はあるか。 ・令和6年度の報告を見て、人と人との繋がりを通じて、色々な学習コンテンツとの結びつきが得られるということを強調されていたと感じた。それを踏まえ、つながり作りを支援するキーパーソンをどう位置づけていくかという観点があると考えた。例えば、子育てネットワークが実施しているホームスタートの取組では、オーガナイザーというまとめ役を位置づけ、コンテンツを送り出す側に中核となる人を置いている。コンテンツを受ける側にも、紹介してつなげてくれる人が中核にすることで、多くの人とコンテンツをつなげることができるのかなと思う。また、両方の立場をつなぐコーディネーターのような人も必要で、それぞれの立場で推進していけるキーパーソンの育成や既にそうした役割を担っている人への支援という観点で議論していったらと考えた。 ・2つ目として、社会教育と学校教育の連携についてである。教員の働き方改革の一環という趣旨もあり、中学校の部活動の地域移行に取り組まれている。子ども達は学校教育を終え、いずれは社会に出て、社会教育に参加するので、学校教育と社会教育がつながり、地域の資源との結びつきを作っていくことが必要だと思う。 ・3つ目は、社会教育のコンテンツについて、生涯学習課だけではなく、様々な部署で取り組まれているが、全体像がよくつかめないことを課題に感じており、他の部署とも連携して全体が把握できるようにしていく取り組みが必要ではないかと考えた。

高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つ目の意見について、以前、駅前のラックについて、主に利用している課に問い合わせたところ、管理主体は別の課であると回答が返ってきたことがあり、縦割りの部分はあるように感じた。一本筋の通った形で管理することも必要だと思う。
松村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が何かをやりたいと思ったときに、市が作成している生涯学習メニューブックは参考になったが、部署を超えて体系的に整理されていないという印象を受けた。三郷市では、「みさと学習情報ガイド」というものを作っており、部署を超えて全体が一覧で分かるようになっている。他団体のことで恐縮だが、吉川市でも部署を超えて生涯学習のコンテンツが整理されたものがあると良いと思う。
米田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私が所属する民生委員・児童委員からは、令和6年4月から義務化された合理的配慮の提供について意見があった。まだ私達もよく分かっておらず、ともすれば、配慮を求める側の立場が強くなってしまふところがあり、配慮する側もよく理解していないと対話がきちんとできなくなってしまうと思う。合理的配慮ということ自体は必要だと思うが、合理的配慮とはどういうことかを知る勉強会あれば、暮らしやすいまちになっていくのではないかと思う。
強矢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ よしかわ子育てネットワークは年代を問わず、皆が関われるイベントに参画することで、人と人をつなぐことに取り組んでいる。先日のおあしす祭りにもブースを出して、ウクレレ隊が障がいのある方と一緒に歌い、野球チームの子達がそこで踊り、吉川の歌を作った小学生と一緒に手話をやるというように、イベントの中でつながりが生まれていた。そうしたつながりを通じて、「この人がいるから、ここにも行こう」というように輪が広がっていることを感じている。外に出ていくことは常に心がけていることである。 ・ 横のつながりということに関して、私の所属する団体では子育て支援センターを運営しているが、現役世代の共働きや自治会に入っていない方が増加し、近所の人顔も知らないという話も聞いているので、若い世代や学生に参画してもらうことの難しさは感じている。今度開催するキッズタウンでは、普段ボランティアなどをやっていない人が、「ちょっとやってみよう」という気軽なところから、地域と繋がっていけることが魅力の1つになっていると考えている。 ・ 毎回、テーマを考えることは難しいことだと思うが、せっかく様々な取り組みをしている団体の方が集まっているので、意見を出し合って何かテーマが決められたら良いと思う。
松村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ やはり、リーダーシップをとれる方を意図的に作っていくことが必要だ

<p>強矢委員 川上委員</p>	<p>と思う。自分の仕事の関係になるが、特別支援教育ではニーズのある人と支援する人を結びつけるコーディネーターという役割を位置づけた。強矢委員の話を聞き、大学生や若い世代の方をそこに結びつける役割を意図的に位置付けていかなければ難しいだろうと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の団体の代表がまさにそうした役割を担っている。 ・私も同団体に所属しているが、団体代表の人は、様々な団体と関わる中で、必要なことを補完できるようなつながり作りをしている。 ・私は国際友好協会にも属している。初めに話があったホームスタートでは、オーガナイザーが子育て世帯にとって必要な情報や場所につなげることに取り組んでいるが、外国人への支援に関しても、様々な場面でコーディネート必要性を感じる場面があるため、個人的に良いテーマであると思った。
<p>松村委員 川上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネートとは、ある程度幅広く知ってる人が、特定の課題に対して、対応できる機関に結びつけるというイメージで宜しいか。 ・そういう方も必要だと思うし、実際に現場にいる私たちが相談できる方がいると良い。コンテンツを送り出す側、紹介してくれる人、両方をつなぐコーディネーターに興味湧いた。
<p>松村委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市には社会教育相談員という仕組みがあると聞いたが、具体的にどのような業務をやっているか。社会教育に関して、コンテンツとニーズがある人を結びつけるような役割を担っているのか。 ・生涯学習課に社会教育指導員がおり、役割としては、PTAなどの社会的関係団体に対する助言や、相談への対応を担っている。
<p>松村委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした勉強がしたいという市民からの相談は、どこにする仕組みになっているか。 ・市では、各課が担当する分野がそれぞれあり、相談内容に応じて担当部門につなげることになる。また、先ほど松村委員から話があったメニューブックの活用も考えられる。
<p>松村委員 事務局 高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、市民から生涯学習課に電話で問い合わせ、今のような趣旨を伝えれば、市民に返してくれるという仕組みか。 ・問い合わせがあれば、市の担当部門につなげることはできる。 ・陶芸の活動で、メニューブックを見た人から連絡があり、一緒に活動することになった事例はある。
<p>松村委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メニューブックに辿り着いた人はそうだろうと思う。市民の方がどこに電話をしたら、最も該当するところにつなげてもらえるか。 ・学習に関しては、まずは生涯学習課が窓口になり、問い合わせがあれば、職員で相談をしながら、できるだけ案内できるよう対応している。

松村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人事異動があるため、対応しきれていない部分もあるが、仕組みとして、社会教育主事を教育委員会に置くとなっている。また、最近できた社会教育士という資格があり、こうした役割を生涯学習課の職員がチームで対応している状況で、生涯学習メニューブックなどを使いながら、できるだけ寄り添って学習情報を提供できるように取り組んでいる。 ・社会教育主事あるいは社会教育士がコーディネーターとして位置づけられている訳ではないと考えてよいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育主事という専門的な知識を学んできた方を中心にしながら、チームとして対応するので、この人がコーディネーターというように決まっている訳ではない。
松村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・機能としてあれば良い。そのことが市民に十分理解され、何か勉強したいときに、市民が相談すれば、コンテンツに誘導してもらえそうな仕組みがあれば、社会教育を推進する中核になっていくと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・国も社会教育主事、社会教育士の活用ということで、行政だけでなく、民間にもこうした方達が、増えていくような取り組みを進めている。
松村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市の委託などで、何人かの方にコーディネーターの役割を位置づけていくことで、つなぎ役になっていくと考えるがどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育では行政だけではなく、担い手がたくさんいることが理想であり、行政が主体的に取り組むことは勿論だが、それ以外のところで広がりが出てくるように、民間の企業にも社会教育士の方が増えていくということが、国が求める姿となっている。行政としては、教育委員会の生涯学習課が市民の社会教育・生涯学習を推進していく立場にあるので、学習に関して相談を受けていきたいと考えている。図書館や公民館も所管しているので、色々な窓口で相談に対応していくように考えている。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・おあしすに市民活動サポートセンターがあるが、コーディネーターの役割という話に関連するか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動サポートセンターは、横のつながりや、新たな活動を始めたい方へのサポートという役割を担っていると思っている。個人の勉強などの相談窓口ではないが、団体の横のつながりを広げたり、ステップアップしていくサポートのために利用いただきたい。
能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・宣伝活動の協力もしているなので、うまく利用すると良いと思う。
松村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・機能としては、市民活動をする側をサポートするものと承知している。機能を強化して、つなぐ役割ができればいいかなと思う。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに市民の方がそういうところへすぐ行き着くシステムがあれば分かりやすいのかなと思う。 ・冒頭に、社会教育と学校教育の中で、中学校の部活動の地域移行の話が

	<p>あった。スポーツ関係は少し形が見えてきたという雰囲気があるが、文化関係の部活に関しては、まだ活動規模が分からない。文化連盟の加盟団体は高齢化が進んでいるので、部活としてできるかわからないが、コーディネートはできるのではないかと話し合ったことがある。動き始めたばかりで、まだ形になっていないが、すぐにつながれるような形を作れば良いと思っている。</p>
<p>松村委員 高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化連盟がその機能を果たせる可能性があるということか。 ・可能性はあるが、加盟団体それぞれに考え方が異なるため、例えば1～2人ならば大丈夫だが、大勢では難しいということもある。また、場所も中学校の近くで実施しなければならないかなど、検討すべきことがたくさんある。まだ形になっていないが、話は少しずつ出てきている。
<p>松村委員 高田委員長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市から文化連盟に対して、こうした課題があるから協力してほしいという働きかけがあるのか。 ・協力の依頼はあるが、まだ骨格ができていないのが現状である。 ・部活動について補足すると、以前は『地域移行』だったが、現在は『地域展開』という言葉に変わっている。部活動の地域展開については関係者で組織する協議会を立ち上げており、先日2回目の会議が開催された。高田委員長にも出ていただいて議論を深めているところである。ここでいう『部活動』は教育の中の部活動なので、運動部で言えば、スポーツの種目を教えるだけではなく、対人関係も含めて教育をしていかなければならないということで、指導者が非常に重要になる。そうした枠組みや費用負担の関係も整っていないので、そこに向けて、人材や団体がどれ位いるかなど、現状把握を進めているところである。
<p>松村委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の課題だから、教育委員会が中心になって推進しているということか。 ・協議会の事務局は学校教育課が担っている。学校で行っていた部活動を地域で展開していくわけなので、その部分は切り離せないところがあり、学校教育課が事務を担当している。
<p>松村委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育の枠の中で行うこととは違うということか。それとも、将来的には社会教育と同じになっていくと捉えて良いのか。 ・ゆくゆくは学校から外に出てくることになり、社会教育の枠組みで捉えていくことになると思うが、今はまだ学習指導要領に部活動が残っている。そういう意味で、メッセージとしては学校教育ということになる。現在は過渡期と言えるだろう。
<p>富田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この社会教育委員会議は、公民館運営審議会を兼ねると説明があったが、参考資料の熊谷市のテーマに「公民館の再編について」とある。吉川市

	<p>にも公民館がいくつもあると思うが、公民館が作られた当時と比べて、人口分布も相当変わってきている。現存する公民館の稼働率も差があると思っている。加えてワンダーランドという施設もある。ワンダーランドも稼働率が高いと言えないとされていて、特に平日は空いている時間が結構ある。ただ、公民館とワンダーランドは全く違う施設と伺っており、例えば公民館を利用している団体がワンダーランドを平日に使うことはできない。</p>
<p>事務局 富田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貸館として使用したいということか。 ・ワンダーランドには立派な体育館があるので、そういうところも使いたい思いがある。部署や所管を超えた施設の利用というテーマを検討案として提案する。
<p>高田委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私は中央公民館で活動している。ワンダーランドの話が出たが、公民館のほかに、地区センターという施設もあり、私も違いがよく分かっていない。吉川美南駅に新しくホールを作るという案も出ているので、会議のテーマとして、今後どういう形にするのが理想かといった話し合いがあって良いと思う。例えば、吉川美南駅にホールができて、おあしすや中央公民館があって、それぞれどう使い分けていくのだろうと思っている。公民館の再編という将来を見据えた話もテーマとなりえるのではないかと思っている。
<p>松村委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館は生涯学習課の所管か。 ・公民館、旭地区センター、市民交流センターおあしすは生涯学習課の所管である。違いを簡単に説明すると、児童館は児童厚生施設で、子ども達を健全に育成するための施設なので、大人が貸館として使用することは難しい。また、公民館は、公民館の関係法令により、団体として行なわれる社会教育活動に対して、提供する場ということになっている。市民交流センターおあしす、旭地区センターはいわゆるコミュニティセンターと言われ、比較的どなたでも利用できる施設になっている。コミュニティセンター化という議論がいくつかの自治体で進んでいるが、これは一長一短があり、誰でも利用できるから良いのか、それとも公民館のように、団体としての社会教育活動を支援していくという意味で、団体登録が必要というルールのもとで利用できる方が良いのかという点では議論の余地はあると思う。また、営利活動、政治活動もしくは宗教活動といった色々なルールも関わってくる。営利活動ができる施設として、市民交流センターおあしすがあるが、非営利利用の場合と営利利用の場合で異なる使用料を設定している。営利の方々の利用が増えると、日頃活動されている方の場が減る可能性があるので、各自治体で難しい議論

強矢委員	<p>がされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館のロビーにソファーが置いてある。以前はそこでちょっとした話し合いができたが、いつからかそこでは話し合いをしてはいけないということになっていたという話を聞いた。あと、おあしすには小中学生が集まって自由に遊べる場所があって、児童館には中曽根小や美南小の子が集まれるが、北谷小の子にはそうした場がなく、公園か、人の家に入れば入る、駄目だったら玄関の外で集まっている。中央公民館は屋根がある大きい建物だが、そこでは遊べない。少しでも柔軟に利用できたら良いということをお伝えする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達や大人が中央公民館に入館して、ロビーで打ち合わせをするということについて、特に拒んでいるということはない。但し、ロビーは多くの方が使う公共スペースであり、図書室も併設されているため、声の大きさに配慮した上で利用いただければ特に問題ないと考えている。 ・以前はもう少しテーブルがあったという話は伺っているが、どれくらいあったかは把握していない。
強矢委員 能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・2テーブルぐらいあったと記憶している。 ・昨年度の研究テーマとして、情報発信の仕方ということをもとめた。今度はそれを活用して、社会活動や社会参加を活性化していく具体的な場の設定を団体に働きかけていくことが必要だと思う。 ・色々な団体で、先細りや参加者が固定化して新しい風が入ってこないという状況が起きているが、それは趣味等が一致した人、あるいは同世代といった限られた範囲の中での活動が多いことが原因だろうと思う。世代間の交流という点では、例えばキッズタウンのような、子どもが主体の活動と思われるものに、大人がサポートするというように、こうした場をたくさん作っていくことが必要だろう。 ・大人が子どもに教える場はあるが、大人が子どもから教わる場がない。それをやっていけば、孫がいる世代が参加して、子どもから教えてもらい、交流が生まれるといった色々な可能性があると思う。場を設定して、昨年度のテーマでまとめたような情報発信をして、社会活動の活性化を図っていくということ、次の段階として考えても良いと思う。
高田委員長 能登委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の仕方以前に、集まりをどこに作っていくかという部分も考えていく必要がある。 ・例えば、子どもはデジタルゲームが好きだが、子どものゲームのやりすぎは、健康によくなく、学力が下がる、時間の無駄と大人は見ている。でも、こういう良い部分があるんだと実感している子どももいて、そういうことを子どもから大人に教える場を設定していく。それが世代間の

<p>高田委員長 事務局</p>	<p>交流を生む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうした場を作ることも、一つの使命であると思う。 ・能登委員から話があった事例に関連して、所沢市の「各公民館と中・高・大学生の関わりについて」というテーマに関して、事例を紹介する。所沢市の富岡公民館で実施している、「富岡シニアスマホ学園」という取り組みが、全国都市改革改善実践事例発表会で最優秀賞となった。内容としては、スマホの使い方がわからなくて困っている高齢者が多いという状況から、使い方を教える相談会を実施したいと職員が考えたことから始まり、人手不足という課題を解決するために、学生に協力をしてもらった仕組みを作ったというものである。学生は、スマホの操作に慣れており、また、学生時代に力を入れた経験をしていきたい気持ちがあり、双方のニーズが上手くマッチングした事例である。若い世代の方が、自分の得意なことを生かし、高齢者の方との交流の場も作りながら、課題の解決に繋がった好事例ということで紹介されていた。先ほど能登委員から、子どもから大人に教える場の可能性という話があったので、それにつながる事例として紹介した。 ・欠席の土屋委員から研究テーマ案のメッセージを預かっているので、代読する。 ・研究テーマとして「インクルーシブな社会教育の推進」を提案する。インクルーシブという言葉は、ここ数年で随分と広がってきた。ただ実際の教育現場では、幼いころから知的障害、肢体不自由、自閉症・情緒障害など、障害名ごとに学級が分けられている。その結果、通常級との交流が限定的になり、子ども自身が「やってみたい」と望んでも、学校の仕組みや人員体制の制約のために叶えられない場面がある。もちろん、知的な理由で学習内容が難しい子どももいるが、活動や交流の面では十分に一緒にできるケースも多いはずである。にもかかわらず、「大人がこの子はここまでしかできない」と線を引いてしまったり、他の保護者への理解が得られないという理由で機会が閉ざされている現状があり、非常にもったいないと感じている。また、地域の障がい者施設でイベントを手伝った際に、ある学生から「親に、自分も変な話し方だから、あの子どもたちの仲間だと思われるよと言われた」と笑い話のように聞かされ、私はその言葉に強い違和感を覚えた。まだまだ無意識の偏見が社会に根強く残っていると痛感した。だからこそ、社会教育として取り上げる必要があると感じている。誰もが生きやすい社会をつくる視点を持てるように、 <p>○子どもに対しては、支援級の児童が特性に応じて挑戦できる機会や、</p>
----------------------	---

<p>入江委員</p>	<p>通常級との交流の場をどう作るか。</p> <p>○大人に対しては、発達障害を含め、医療や療育に任せきりにせず、地域全体で支え合うための理解を深める機会をどう提供するか。</p> <p>市も重点施策の中で「誰もが学び合い、共に育つ教育環境づくり」を掲げている。社会教育委員会議としてこのテーマを研究し、地域に広げていくことは、市の教育行政をさらに具体化する大切な一步になると考えている。以上の理由から、研究テーマに「インクルーシブな社会教育」を取り上げることが提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は子ども大学よしかわに関わっている。職場が市内で、住まいは市外にあるので、吉川市はこういうことをやっているのかという思いで、話を伺っていた。色々なことをやっているが、情報がありすぎて、知らないことが本当に多いと感じた。私自身は社会活動に積極的に参加している訳ではないが、そうした活動が沢山あるということが分かった。昨年度のテーマが、効果的な情報発信ということで、もう少しそれを発展的に、検討していくことが良いのかなと個人的には感じた。
<p>石井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私も発展していくような形が良いと思っている。今まで考えてきたものを元に、何かをして、それでまた改善していくというサイクルで考えると、前回の情報発信を次にどうやって生かしていくかということが大事かなと思っている。 ・私はPTAという立場で参加させてもらっているが、PTA連合会に関しては今年度に解散し、各学校のPTAに関しても、縮小の傾向がずっと続いている状況である。こうした会議に参加する方達は、つながりを持ちたい、持った方が良いという考えが大きいと思うが、つながりを持ちたくないという人達もいる。自治会もそうだが、PTAもはっきりとつながりを持ちたくないという発信をする人達も増えてきている。そういった人も、つながりを持ちたくない時期があるだけで、いずれはつながりを持ちたい時期が来ると思っていて、その時に必要な情報を受け取れるような環境の整備ができると良いのかなと思っている。情報環境の整備に、うまく情報発信の活用を取り入れていくということを実践していけたら良いと思っている。
<p>福田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまで大きく三つの話だったのかなと思っている。 <p>一つ目は、色々な機能やコンテンツはあるが、それぞれがバラバラで、根拠法や部署間の連携の問題で、うまく有機的に繋がってないという話だったと認識している。松村委員から、一つの解としてコーディネーターという話をされたと理解したが、それは非常に納得のいくテーマだと思った。本当に色々な機能やコンテンツが用意されているけれども、そ</p>

	<p>ここに辿り着くまでが遠くて、気がつかない人はずっと気がつかない。生成AIが発達し、ある程度の解を出してくれる状況なので、例えば市役所の色々な機能を落とし込んだエージェントがあって、そこにアクセスすれば、この課に行けば良いということが分かる。一例として、そうしたことができる時代になりつつあるので、今ある機能やコンテンツと、ニーズとのアンマッチがなぜ起きているのか、それをどうしたら解消できるか、ということを経済教育の切り口から、考えてみてはどうか。他の課や法令の関係で、ここだけでは解消できなくても、少なくとも我々として、こういう解があるのではないかと結論を出せるテーマにするのは良いとに思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の情報発信からつながってくる、幅広い世代や色々な人たちの社会教育への参画が上手くいかないところを何とかしよう、ということもすごく重要なテーマだと思うので、ぜひ続けてやった方がいいのではないかなと思う。 ・米田委員がおっしゃったような障がい者差別解消法に基づく合理的な配慮の話や、土屋委員のインクルーシブな社会教育という点も、吉川市としてどう考えていくか、という大きくこの3つの話をされていたと理解したが、どれも非常に良いテーマなのではないかなということをお伝えできればと思う。
大河内委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信のツールに広報がある。私も市外在住のため、日頃から積極的に吉川市の広報を見ることはないが、下の方にSNSのリンクがあったと思う。そういったものが、果たしてどれくらい見られているのかなというのは、率直に疑問に思った。情報を得る上で、まだまだ広報が一番重要なのかなということを見ると、目に留まりやすい形になれば良いかなと考えている。困ったことがあれば、ここに電話していただきたとか、SNSであればリンクを貼って、気軽に情報収集できるようなものがあると良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現状でそうした情報の表示の仕方はされているか。 ・行政が直接取り組んでいるものではないが、観光協会でインスタグラムに取り組んでいる。また、市の公式LINEでは、例えば「子ども」というジャンルを選択すると、子ども関連の情報がプッシュ型で通知されるといった取り組みも始めたところである。 ・また、2次元コードをできるだけ使いながら発信しているが、各部署によってばらつきがある。情報発信に関して現実的な話をすると、リアルタイムで講座やイベントの情報をまとめたものが広報になり、これ以上のものを生涯学習課がやることは難しい。デジタルを活用していくとい

	<p>うところが、一番の解になり得るのかなと思う。情報を束ねるということについては、どこで何を何で括るかというのは、情報を受け取る側の選択になる。生涯学習、社会教育という大きなテーマで検索することはなく、例えば、外国語、平和といったところで括るとすると、やはりデジタルを活用することが、一番やりやすい方法になってくると思うので、先進事例も見ながら議論していくのも良いというように思った。</p>
<p>松村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 対話型生成AIの技術が進歩していて、プロンプトを入れれば一覧が出てくる。例えば、吉川市太極拳と入れれば、どんなところでやっているかという一覧が出てくる時代になっているので、情報検索という観点では得たい情報は得られやすくなっている。ただし、その前提としてデジタルデータが載っていない限りは出てこない。また、正確性や周辺情報が入ってこないといった欠点があるとも感じている。太極拳と入れたら他のスポーツの情報は出てこないため、出会いの場が制限されてしまう。周辺情報も含めて得るには、より高いところでプロンプトを入れるしかないかもしれないが、そこがデメリットだと思う。『舟を編む』という映画で、中型の辞書を作るときに、電子データがあれば良いという理論に対して、紙の辞書ではページをめくって周辺にある情報が入ってくることで出会いが多くなるというセリフがあった。やはりデジタルベースだけではなく、紙媒体も必要ではないかと思った。
<p>鈴木副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 色々と話を聞いて、共感するところがたくさんあった。今までは情報の発信の方を中心に考えてきた。この情報を知りたいが、どこに行けば良いのかということで悩んでいたり、また、つながりは今は必要ないけど、いざ欲しいとなった時に、どこで情報をもらえば良いということで、やはり正しい情報をここに行けばもらえるというシステムを作っていくことが大事なのかなと思った。だから、情報発信の発展ではないが、それを受ける側の立場に立って考えてみるのも一つの方法なのかなというように思った。そうすることで発展にもつながるし、逆の見方をすると今まで見えなかった部分も見えてくるのかなということを思いながら聞いていた。全く違う話だが、高齢者になると、今の社会についていけないと感じるところがある。買い物にしても、食事に行っても中々対応できないということで、どうしたら安心して生活できるかと戸惑っているところがある。そういう意味でも、正しい情報を提供して、こういう風にやれば、手がかりがもらえる、そういう情報があるということを考えることも一つなのかなというように思って聞いていた。
<p>福田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> それは良いと思う。前はどう発信していけば受け取ってもらえるのか、今度は受け取り側が受け取りやすくするにはどうするかというように、

鈴木副委員長	裏返して考えることは。前のテーマとつながりがあって、良いのではないかと思う。
米田委員	<ul style="list-style-type: none"> 先ほど「つながりたくないんだ」という話があった。確かにそのとおりで、我々が考えると、どうやったらつながるのかということばかり考えるが、今はつながりたくない、でも、将来はつながりたいってすごくいい言葉だなと思った。その時にどこにアクセスしたら、情報がもらえるのかを分かっているとやりやすい、すごく助かるなというように感じた。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 色々な意見が出て、結局行き着くところはやはりその情報ということで、その情報が発信されたり、受け取れたりすることで、いま出たテーマが全部解決されるのかなというように感じた。
高田委員長	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な意見をいただいた。このあと事務局で整理はするが、情報発信について発信というところで止まっているかもしれないが、その向こう側のつながり作り、もしくは居場所づくりのための情報発信、情報入手といったテーマが、今の意見をまとめたところなのかなと考えた。情報発信のもう一步向こう側を見るようなテーマで議論していくという意見だったのかなと思っている。全体の意見を一度振り返り、次回の会議で具体的な案を事務局の方から提示させていただければと思う。 たくさんの意見ありがとうございました。次回はテーマ決定の議論になると思うので、事務局には次回の会議で意見のまとめの提示をよろしく願います。
高田委員長 事務局	<p>(2) 令和8年度社会教育関係団体への補助金交付について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局から説明を求める。 資料に基づき説明 <p>令和7年度からの変更点として、PTA連合会補助金の皆減理由を説明。</p>
松村委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> 限度額とあるが、それを限度に必要に応じて支出するという意味か。 限度額は来年度予算として確保しようと考えてる金額であり、実際の補助金の交付においては、実事業費の分までしか支出しないことになる。
鈴木副委員長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> PTA連合会補助金がなくなるという説明があったが、単位PTAには交付金を出せないのか。 PTAの役割として、学校教育と家庭教育それぞれの役割について理解を深めながら、相互に協力していくということがある。市では家庭教育の理解を深める活動を実施する場合に活用できる、別の交付金を用意して支援をしている。
鈴木副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育学級をやる場合には、事前に計画して実施すれば、交付金が活用できるということで承知した。ただ、どんどんジリ貧になってしまう

<p>事務局</p> <p>高田委員長</p> <p>事務局</p>	<p>のではないかと心配している。ただでさえ、PTAは不要ではという大きな流れの中にある。そういう時代でも、頑張っている単位PTAがあるのではないかという感じがした。そういう単位PTAはどうなるのだろうと心配になって質問した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの単位PTAも頑張っている。市では各単位PTAに取り組んでもらえたらということ、支援メニューとして用意しているが、それが重荷になってしまっている部分もある。現在は単位PTAが自らの活動を見直し、取捨選択するといった過渡期にある。今後、PTAとしてこういう体制にしていきたいといったことや、こういうことに取り組みたいということが出てきた時に、支援する形を作っていくのが良いと考えている。 ・他に質問があるか。 (質問なし) ・意見や質問がなければ、決をとりたいので、賛成の場合は挙手をお願いする。 (全員挙手) ・全員賛成として、社会教育委員会議の意見とさせていただく。 ・議事は以上となるので、事務局へ進行を返す。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は1月下旬から2月上旬開催を予定。 ・強矢委員、川上委員より所属団体の事業の案内。 <p>5 閉会</p> <p>鈴木副委員長挨拶</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和7年11月29日</p> <p>署名委員 川上 裕子 (自署) 署名委員 福田 稔之 (自署)</p>	